

本年度テーマ

主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について

事業内容

高知国際中学校・高等学校（IB教育プログラム）

概要・目的

本県におけるグローバル教育では、授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒の学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、これまでの研究を踏まえた実践の充実・普及と、開校する高知国際高等学校への継承をイメージして協議する。

P

平成30年度の当初計画

取組① MYPにおける質の高い授業の研究

- A 評価課題の質向上
- B 教員主体の持続可能な授業研究システム
- C DPとの接続を意識した授業づくり
- D 生徒理解
- E サービス アズ アクション
- F 英語力強化
- G ICT活用

取組② DP認定（2020）に向けた申請準備

- A 2019年4月候補校申請
- B 教育課程の確定（9月）
- C 人材育成
- D DP授業研究

取組③ 学びのコミュニティづくり

(ソフト面)

- A 保護者・教職員も学習者として学ぶ
- B 外部人材の活用

(ハード面)

- C 外部組織、機関の活用
- D 学びの境界線の排除（教科間の境界、学びの場所の境界、教える側、学ぶ側の意識の境界等）

取組④ 円滑な統合に向けた連携

- A 高知南中学校での周知と協働
- B 高知西高校での周知と協働
- C 高知国際高校卒業後の進路研究

D

平成30年度の実行状況

取組① MYPにおける質の高い授業の研究

- A 基本的に週1回のMYPミーティング実施
自立し持続的に授業研究できるような教員向けのガイドを作成
IB公式校内ワークショップ実施（8月2日間）
- B 教員のバディ制度導入、自主学習サークル的活動（外部参加も検討）
- C 東京学芸大学附属国際中等教育学校派遣教員等との情報共有
- D スクールカウンセラー、外部講師、外部機関専門家による教員に対する指導助言
- F 東京学芸大学附属国際中等教育学校での英語授業実践からの学び、比較検討
- G 一人一台タブレットPCの活用（Gスイート、クラッシー）

取組② DP認定（2020）に向けた申請準備

- A IB公式DPワークショップへの参加（8月）
- B 9月確定に向けて検討中
- C 東京学芸大学附属国際中等教育学校への派遣（6名）
- D 先進校からの情報収集
- D IB教育推進アドバイザーによる助言（9月コンサルタント決定）
- D 外部講師によるコア科目（TOK）の校内学習会（6月、7月）県外視察（1月、2月）

取組③ 学びのコミュニティづくり

- AB 年間7回の保護者シェア会の実施
- A 保護者への学習内容等の連絡（クラッシーの活用）
- BC 国内のMYP導入（予定）の公立学校との情報共有（SNS等での情報共有）
- C 県立図書館/電子図書館全員登録等県内施設の活用
- C SNSによる情報発信
- C PYP導入検討の香美市との連携（相互の研修への参加）
- D 県内事業所等への訪問による「地域」概念づくり（土佐経済同友会、移住促進課等連携、協力先づくり）
- D フリー学習スペースや廊下のベンチと図書配置（学校図書館の概念づくり）
- D 常に授業公開を行う風土づくり（県内外からの視察件数：34件、授業参観旬間実施、授業改善プラン中部教育事務所による指導助言4教科）

取組④ 円滑な統合に向けた連携

- A 指導主事（教育センター南智恵指導主事）による英語授業での助言（6月）
- A 高知南中教職員・保護者対象の学校説明会（7月）
- A 高知南中教頭等による高知国際中道徳校内研修会での助言（8月）
- A 高知南中学校道徳授業研修会への参加（11月）
- AB 高知南中学校、高知西高校との合同部活動（弓道部、吹奏楽部）
- A 高知南中学校・本校生徒との交流事業（10月実施、）
- B 高知西高校教職員への校内研修会の案内
- B 高知西高校との合同職員室
- ABC 両校との進路に係る情報共有、業者との情報共有（業者の授業視察等あり）

C

A

成果（☆）、課題（●）、今後の取組（→）

取組① MYPにおける質の高い授業の研究

- ☆高知国際型のユニットプランナー作成ガイドを改良できている
- ☆授業公開の風土ができています
- 日常的に授業探究のサイクルが活発になる仕組みの必要性がある
→探究学習の定義や概念の見直し →個々の教員の資質指導力向上
→学習指導要領の熟読・熟考と小中高をつなぐ指導技術の向上
- ☆生徒理解について外部機関との連携（教育委員会、高知大学教授、巡回相談、(SC)等）
- 生徒一人ひとりに応じた指導スキルの向上が必要である
→専門分野の研究→基本的な指導技術の見直し→特別な支援が必要な生徒への対応

取組② DP認定（2020）に向けた申請準備

- ☆DP申請チームによる進捗管理や内容の設計
- DP授業についての研究不足及び研究機会の不足
→最終試験の研究→MYP段階で育てるべき力の研究 →DP申請チーム内での学習
→他県先進校とのネットワークづくり
- 日本語資料や教材の不足
→英語使用のできる教員の育成、翻訳業務の外部発注 →コンソーシアムへの依頼
- 教員採用と養成
→大学院IB教員養成コースとの連携 →県教育委員会へ依頼
県内大学教員養成コースでの情報共有、→採用の中にIBの観点を取り入れる
→本校におけるインターン制度及び県内教員研修

取組③ 学びのコミュニティづくり

- ☆学校説明会での生徒・保護者の参画など広報官としての意識付け
- ☆メディアを活用しての広報
- IB教育の理解を校内外で広める必要がある
- ★視察・講演等来校者（40件 220名）H31.1.31現在
→生徒・保護者が発信者となるような活動を仕組む →生徒のチャレンジ活動（各種コンテスト等への挑戦、校外に開く各種発表会の実施）
→ホームページでの発信 →教育の特徴や質に焦点をおいたメディアでの発信
- 県内施設に協力体制をつくっていく必要がある
→教員が、出向く広報活動、生徒の活動による理解、周知→地域活動や塾への関わり

取組④ 円滑な統合に向けた連携

- ☆合同部活動、生徒交流会、テスト交換など具体的な交流を開始
- 各教科の授業レベルでの研究
→新学習指導要領にそった評価と逆向き設計による研究で交流する →テスト、評価体験
- 卒業後の進路研究
→大学入試改革と今後の「学力観」などについて中高大で研究する
- 円滑な統合と充実した教育環境をつくる
→県教育委員会の理解と継続的な協力 →指導主事研修会等におけるIB教育内容周知
- 高校開校に向けた学校づくりと広報活動 →準備に向けた組織設置の要望

平成30年度 到達目標

- ・授業づくりのための外部を交えた学習会を行う（4回以上）など、教職員の資質指導力向上のための機会を保障。
- ・全国の公立IB校とのネットワークにより、情報共有のシステムづくりができています。（管理職や担当レベルで協議できる場面設定がある）